

平成28年5月16日

一般社団法人
北海道認知症グループホーム協会
会員 各位

一般社団法人
北海道認知症グループホーム協会
平成28年度 実践研究大会
大会長 板谷 俊英

平成28年度 実践研究大会 事例(発表者)の募集

平成12年から介護保険制度がスタートし、認知症を有した方々へ生活支援を届ける切り札として認知症対応型共同生活介護（グループホーム）が全国に広がり、多くの成果を上げるとともに、多くの課題に取り組んでおります。

それぞれのホームにおきましても、入居者様への支援、地域作りへの参画など様々な取り組みがなされていると思われまます。それら実践の中での取り組みや気づきなどをこの機会に多くの皆様と共有できればと思い、実践研究大会を企画致しました。成功や失敗といった結果にとらわれることなく、様々な取り組みが皆様の支援のヒントにつながれば、更に支援も広がり、そして深まっていくことと思います。

そこで今回、各ブロック毎に最低1事例の発表を募り、当日は分科会形式で多くの実践事例の発表をお願いしたいと思います。抄録の提出は各ブロック事務局へお寄せいただき、各ブロック事務局から大会事務局へ提出をお願い致します。

抄録の作成及び発表に関しては日本認知症ケア学会の発表ルールを準用致しますので別送のフォーマット（各事務局にメールで送付）を使用して下さい。（時数は1380字以内）

記

発表抄録応募： （発表申込者→ブロック事務局へメールで送信ください）

ご不明な点につきましてはメール又はTELにて、各ブロック事務局またはブロック会長までお問合せください。

提出先： 所属ブロック事務局

募集数： 1ブロック最低1事例提出（持ち時間は1事例15分質疑応答5分）
抄録原稿フォーマットは道協会HPまたはブロック事務局から取り寄せてください。（字数は1,380字以内）

応募多数の場合は大会事務局で選考いたします。

応募期間： 平成28年 6月 1日～8月末日迄とします

開催日： 平成28年 10月31日（月）

開催場所： ANA CROWNE PLAZA KUSHIRO

釧路市錦町3-7 ☎0154-31-4761

発表形式： 口頭発表（パワーポイント、イラストなどの使用も可能です）

以上

事例発表「抄録」の作成について

※テーマ（タイトル）を決める

一目見て発表がどんな内容なのかイメージできるように、抄録の内容を明確に表現する。独自性を大切に。同様にサブテーマもつける。

※共同研究者の名前：発表する発表内容に直接的に関わった方

① 目的：今回そのテーマをなぜ考えたのか？動機は何か、取り上げようとするものの意義、その現状や背景などを含めてまとめる。

②方法：事例の紹介、評価、分析の方法など誰が見ても聞いてもわかるように事実を具体的に示す。

Who （誰が？研究した人）

Whom （誰に？対象者）

What （何を？）

When （いつ？）

Where （どこで？）

How （どんな方法で？）

※「方法」の段階で結果は書かない

③結果：どうなった？回数の変化などは、取り組む前と後でどうなったかを数字等で示す。「方法」で述べた経緯、評価に関しては具体的な数値やその変化を推論は書かず、事実を伝える。

④考察（結論）：この事例を通して（結果を踏まえて）新たにわかったこと、問題点、今後の方向性などについて客観的に書く。⇒ 目的との関連を見失わない。

※個人的な思いや感想は避けて科学的に表現。

「…と感じた」ではなく、「…と考えられる」など

語尾が「です」「ます」にならないよう、また混ざらないよう注意する。

以上をご参考に抄録作成へのご協力をお願い致します。

なお、抄録の様式（フォーマット）は、北海道認知症グループホーム協会ホームページ (<http://www.h-gh.net/>) 及び各ブロック事務局にデータがございますので、ダウンロード等にてご使用ください。